ウェブ版はこちら。データとレーティングはウェブ版の最新版を正とする
alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w41

グローバルマクロ週報 · 2026年第41週（10/5〜10/9）

ボベスパ指数は8.8%上昇、KOSPIは5.4%下落、ブレント原油は104.72ドル

新興国市場内の格差が拡大し、米国債利回りは高水準からやや低下した。過去1カ月で主要中銀5行が利上げした

今週の世界株は小幅に上昇し、MSCI ACWI（ドル建て）は0.5%高となったが、新興国市場では明暗が分かれた。ブラジルでは大統領選第1回投票の結果を受けてボベスパ指数が8.8%上昇し、レアルも対ドルで4.1%上昇したため、ドル建てリターンは約13.3%に達した。一方、韓国KOSPIは3営業日で5.4%下落し、MSCI新興国ETFは1.3%安となった。ブレント原油はホルムズ海峡の航行リスクを背景に2.4%上昇し、104.72ドルとなった。9月FOMC議事要旨では多くの参加者が年内の追加利上げを適切とみており、インド準備銀行は10月7日に政策金利を0.25%引き上げ5.50%とした。ただし米国債利回りは複数年来の高水準からやや低下し、10年債は木曜日時点で5.22%となった。

世界株（MSCI ACWI、ドル建て）	ユーロ圏・ストックス50	日本・日経平均	香港・ハンセン	ドル指数
+0.5%	-1.0%	+1.1%	+1.0%	102.21
終値 160.90	終値 6,173.37	終値 69,030.92	終値 24,211.35	週間 +0.28

ブレント原油
+2.4%
終値 104.72

01

今週の要点

ブラジル大統領選第1回投票の結果を受け、株式と通貨がそろって大幅高

10月4日のブラジル大統領選第1回投票では、フラビオ・ボルソナロ上院議員の得票率が約47%となり、現職ルラ大統領の約45%を上回った。決選投票は**10月25日**に行われる（T. Rowe Price、10月9日）。ボベスパ指数は10月5日に7.7%上昇して過去最高の20万

6912となり、レアルも約4%上昇した（Rio Times、10月5日）。金曜日も1.38%上昇して過去最高の20万9067で取引を終え、金利先物利回りは低下した（Rio Times、10月9日）。

週間ではボベスパ指数が**8.8%**、レアルが対ドルで**4.1%**上昇し、ドル建てリターンは約**13.3%**と主要株価指数で最も高い。相場は決選投票の結果に対する期待を織り込んでおり、10月25日までは政治リスクが高い状態が続く。また9月の消費者物価上昇率は前年比4.58%と許容レンジ上限の4.5%を上回った（T. Rowe Price）。中銀は9月にSelic金利を13.75%へ引き下げたばかりであり、インフレの再加速は追加利下げの余地を狭める可能性がある（推測）。メキシコIPC指数は2.35%、ペソは0.70%上昇し、ドル建てでは約3.1%の上昇となった。

海外投資家による半導体主力株の売り越しが続き、KOSPIは3営業日で5.4%下落

韓国市場は今週3営業日のみであった（10月5日は開天節の振替休日、10月9日はハングルの日）。KOSPIは10月6日から8日にかけて**5.4%**下落し、8日は2.62%安の6626となった。同日の海外投資家と機関投資家の売り越し額は合計で4兆ウォン近くに達した（BigGo Finance、Trading Economics）。9月1日から10月2日までの海外投資家のKOSPI売り越し額は20.3兆ウォンで、その約85%がSKハイニックスとサムスン電子に集中した。サムスン電子は過去最高の四半期営業利益を発表したが、利益確定売りで株価は2.42%下落した。ウォンは対ドルで1.3%上昇しており、ドル建てのKOSPIは約4.2%の下落となる。

アジアのハイテク株は総じて軟調であった。中国本土市場は国慶節休暇明けの10月8日に取引を再開し、上海総合指数は0.74%、CSI300は0.93%下落した。科創50指数は米国による光通信製品の規制観測を受け、木曜日に4.8%下落した（T. Rowe Price）。台湾加権指数は金曜日の休場前までに1.7%上昇し、ハンセン指数は1.0%上昇した。MSCI新興国ETF（ドル建て）は1.3%下落してACWIを約1.8ポイント下回り、韓国の主力株の下落が主な押し下げ要因になったとみられる（推測）。

原油高とFOMC議事要旨で利上げ観測が強まる一方、米国債利回りは高水準から低下

ブレント原油は**2.4%**上昇し104.72ドルとなった。10月8日にはイランがホルムズ海峡を通る無許可の航路を封鎖すると警告し、メキシコ湾の暴風雨で一部の海上生産が停止したことから、ブレントは同日約4%上昇し、週中の高値は105.92ドルに達した（FinanceFeeds）。米エネルギー情報局は第4四半期のブレント予想を約14ドル引き上げ、105ドル前後とした。

10月7日公表の9月FOMC議事要旨では、参加者19人全員がFF金利誘導目標の3.75～4.00%への引き上げを支持し、多くの参加者が年内にもう一度の利上げが適切となる可能性が高いとの見方を示した。週末時点で市場は10月28日の据え置きを約80%、12月の利上げを約70%織り込んでいる（Yahoo Finance）。同日、インド準備銀行はレポ金利を0.25%引き上げ5.50%とした。利上げは2023年2月以来であり、政策スタンスを中立から「段階的引き締め」に変更した（SCC Online、10月9日）。

利上げ観測が強まる中でも、米国債利回りは複数年来の高水準からやや低下した。木曜日までに2年債利回りは8bp低下の4.75%、10年債利回りは6bp低下の5.22%となり、MOVE指数は8.8ポイント低下の98.5となった。国債入札の需要が堅調であったことが利回り低下の一因である（T. Rowe Price）。

> 金利市場は中銀の追加利上げを織り込む一方、株式市場の動きは主に各国の国内政治と資金フローによって決まっており、世界の資産価格の連動性は低下している。

02

世界の株式市場

週間騰落（現地通貨建て）

ブラジル・ボベスパ +8.8% 年初来 +29.8%	メキシコ・IPC +2.4% 年初来 +2.7%	台湾・加権指数 +1.7% 年初来 +70.3%	米国・S&P500 +1.2% 年初来 +14.1%	日本・日経平均 +1.1% 年初来 +37.1%	香港・ハンセン +1.0% 年初来 -5.5%
スイス・SMI +0.9% 年初来 +3.9%	英国・FTSE100 +0.9% 年初来 +6.2%	世界株（MSCI ACWI、ドル建て） +0.5% 年初来 +14.5%	カナダ・TSX +0.5% 年初来 +12.5%	インド・Nifty50 +0.4% 年初来 -13.8%	豪州・ASX200 +0.4% 年初来 +0.0%
ドイツ・DAX -0.6% 年初来 +2.4%	中国・上海総合 -0.7% 年初来 -3.9%	ユーロ圏・ストックス50 -1.0% 年初来 +6.5%	フランス・CAC40 -1.2% 年初来 -4.2%	新興国株（MSCI EM、ドル建て） -1.3% 年初来 +22.7%	韓国・KOSPI -5.4% 年初来 +57.2%

各国指数は現地通貨建て。MSCI ACWI と新興国（EEM）はドル建て ETF。

現地通貨建てとドル建て：ドル建てでは、ブラジル（約13.3%高）、メキシコ（約3.1%高）、日本（約0.9%高）が現地通貨建てと同程度以上のリターンとなった。韓国（約4.2%安）とユーロ・ストックス50（約1.4%安）はいずれの尺度でも下落した。インドのNifty50はルピー建てで0.4%上昇したが、ルピーが0.6%下落したため、ドル建てでは約0.2%の下落である。

米国：S&P500は1.15%上昇し週中に最高値を更新した。ダウ工業株30種平均は0.93%、ナスダック総合指数は0.64%上昇し、ラッセル2000は下落した。生活必需品、公益、エネルギーが上昇を主導し、資本財とハイテクは出遅れた（T. Rowe Price）。

欧州：STOXX600はほぼ横ばい（0.03%高）であったが、国別の格差は大きい。FTSE100は0.86%上昇した一方、DAXは0.57%、CAC40は1.19%、イタリアFTSE MIBは1.46%下落した。財政見通しと予算執行をめぐる政治的制約がフランス株の重荷となっている。ドイツ指標は製造業受注が大幅に減少する一方、鉱工業生産は前月比2.0%増と強弱が分かれた。

日本と中国：日経平均は1.06%、TOPIXは0.34%上昇し、値がさ株の影響が大きい日経平均が相対的に堅調であった。中国本土株は休暇明けの2営業日で下落した。国慶節連休の国内旅行者数は延べ8億2600万人と前年比6.3%増加したが、旅行収入は4.3%増にとどまり、1人当たり支出は減少した。

03

主要通貨の対ドル相場

対ドルの週間騰落

レアル +4.1% 年初来 +9.1%	ウォン +1.3% 年初来 +7.1%	メキシコペソ +0.7% 年初来 -1.1%	豪ドル +0.4% 年初来 +3.9%	ポンド +0.2% 年初来 -1.8%	スイスフラン +0.1% 年初来 -4.6%
人民元 +0.0% 年初来 +4.4%	円 -0.2% 年初来 -1.2%	ユーロ -0.4% 年初来 -4.6%	ルピー -0.6% 年初来 -7.3%		

プラスは当該通貨の対ドルでの上昇を示す。

通貨	レート	対ドル・週間	対ドル・年初来
レアル	USD/5.0177	+4.1%	+9.1%
ウォン	USD/1,342.99	+1.3%	+7.1%
メキシコペソ	USD/18.19	+0.7%	-1.1%
豪ドル	0.6959	+0.4%	+3.9%

通貨	レート	対ドル・週間	対ドル・年初来
ポンド	1.3229	+0.2%	-1.8%
スイスフラン	USD/0.8300	+0.1%	-4.6%
人民元	USD/6.7021	+0.0%	+4.4%
円	USD/158.25	-0.2%	-1.2%
ユーロ	1.1206	-0.4%	-4.6%
ルピー	USD/96.82	-0.6%	-7.3%

ドル指数は週末 102.21（+0.28）。USD/ 表記は1ドルあたりの通貨量。

ドル指数は0.28上昇の102.21となり、4週連続で上昇した。主要10通貨のうち5通貨が対ドルで上昇、5通貨が下落し、格差の主因はドル自体よりも各国の国内要因である。

上昇：ブラジルレアル（4.1%高）が選挙結果を受けて最も上昇した。ウォン（1.3%高）は株安の中でも上昇し、メキシコペソ（0.7%高）と豪ドル（0.4%高）はリスク資産の上昇に連動した。

下落：インドルピー（0.6%安）は利上げ後も96.82まで下落し、過去最安値に近い。利上げは原油高による経常収支への圧力をまだ相殺していないとみられる（推測）。ユーロ（0.4%安）は1.1206、円（0.2%安）は158.25で取引を終えた。

人民元はほぼ横ばい（0.04%高）で、年初来では対ドルで4.4%上昇しており、今年の主要通貨の中で上昇率が大きい。

04

金利と金融政策

中央銀行	政策金利	直近の決定	次回会合
FRB	3.75〜4.00%	9月16日 0.25%利上げ（12対0）	10月27〜28日
ECB（預金ファシリティ金利）	2.50%	9月10日 0.25%利上げ	10月29日
日本銀行	1.25%程度	9月18日 0.25%利上げ（7対2）	10月29〜30日
イングランド銀行	3.75%	9月17日 据え置き（6対3、3人が利上げを主張）	11月5日
スイス国立銀行	0%	9月24日 据え置き	12月10日
豪準備銀行	4.60%	9月29日 0.25%利上げ（全会一致）	11月3日
カナダ銀行	2.25%	9月2日 据え置き	10月28日
中国人民銀行（1年物 / 5年物LPR）	3.00% / 3.50%	9月20日 据え置き	10月20日（LPR公表）
インド準備銀行	5.50%	10月7日 0.25%利上げ（全会一致）	12月4日
ブラジル中央銀行（Selic）	13.75%	9月16日 0.25%利下げ	11月4日
メキシコ銀行	6.50%	9月24日 据え置き	11月5日

各中央銀行の公表資料に基づき、発行時に確認。

米国債	週末値	週間変化	年初来
米2年債	4.75%	-8bp	+128bp
米10年債	5.22%	-6bp	+104bp
米30年債	5.60%	-3bp	+76bp
10年実質金利（TIPS）	2.87%	-5bp	+94bp
10年ブレークイーブン・インフレ率	2.33%	-3bp	+8bp

10年国債利回り（月次）	最新月	利回り	前月比
オーストラリア	2026-08	5.01%	+10bp

10年国債利回り（月次）	最新月	利回り	前月比
英国	2026-08	4.99%	+6bp
フランス	2026-08	4.00%	+15bp
イタリア	2026-08	3.99%	+11bp
カナダ	2026-08	3.67%	+13bp
ドイツ	2026-08	3.18%	+11bp
日本	2026-08	2.94%	+15bp

OECD の月次データ（FRED 経由）で、通常1〜2カ月遅れ。水準の確認用で、今週の動きは下の債券 ETF と本文を参照。

債券 ETF	週間	1カ月	年初来
新興国ドル建て債（EMB）	+1.1%	-2.7%	-1.5%
米長期国債（TLT）	+0.6%	-4.2%	-7.4%
米ハイイールド債（HYG）	+0.4%	-1.8%	+0.1%
米国外投資適格債（BNDX、ヘッジあり）	+0.3%	-0.3%	-0.7%
米国外国債（BWX、ヘッジなし）	+0.1%	-3.4%	-4.4%

債券価格と利回りは逆に動くため、ETF の下落は利回りの上昇を意味する。

米国債：木曜日まで（FRED）に2年債、10年債、30年債の利回りはそれぞれ8bp、6bp、3bp低下し、イールドカーブはブル・スティープ化した。10年実質金利は5bp低下の2.87%、期待インフレ率（ブレークイーブン）は3bp低下の2.33%であり、低下の大半は実質金利による。金曜日の10年債利回り（Cboe指数）は5.24%前後と、木曜日からわずかに上昇した。年初来では2年債が128bp、10年債が104bp上昇している。

その他の国債：日本の10年国債利回りは3.09%から3.01%へ低下した（T. Rowe Price）。OECD月次データでは、8月の豪州と英国の10年債利回りはいずれも5%前後と主要先進国で最も高い。債券ETFでは新興国ドル建て債（EMB）が1.1%、米長期国債（TLT）が0.6%上昇し、米国外国債（BWX、ヘッジなし）はほぼ横ばいであった。

金融政策の分岐：過去1カ月でFRB（9月16日）、ECB（9月10日）、日銀（9月18日）、豪準備銀行（9月29日）、インド準備銀行（10月7日）が相次いで利上げした。イングランド銀行は6対3で3.75%に据え置き、3人の委員が利上げを主張した。スイス国立銀行、カナダ銀行、メキシコ銀行、中国人民銀行は据え置き、ブラジル中銀は表中で唯一利下げを続けている。エネルギー価格の上昇が、多くの中銀が引き締めに転じた共通の要因である。

05

商品・暗号資産

週間騰落（ドル建て）

米天然ガス +6.1% 年初来 -12.6%	ブレント原油 +2.4% 年初来 +72.1%	銅 +2.3% 年初来 +18.0%	金 +1.3% 年初来 -2.9%	銀 +1.2% 年初来 -13.5%	WTI 原油 +0.8% 年初来 +60.0%
小麦 -1.8% 年初来 +32.3%	トウモロコシ -3.6% 年初来 +9.0%	ビットコイン -4.5% 年初来 -5.7%	イーサリアム -8.8% 年初来 -16.2%		

資産	直近	週間	1カ月	年初来
米天然ガス	3.22	+6.1%	+14.1%	-12.6%
ブレント原油	104.72	+2.4%	+3.5%	+72.1%
銅	6.64	+2.3%	-2.4%	+18.0%

資産	直近	週間	1カ月	年初来
金	4,216.30	+1.3%	-5.5%	-2.9%
銀	60.67	+1.2%	-10.7%	-13.5%
WTI 原油	91.85	+0.8%	-4.4%	+60.0%
小麦	671.00	-1.8%	-5.7%	+32.3%
トウモロコシ	479.75	-3.6%	-5.5%	+9.0%
ビットコイン	82,546.32	-4.5%	+5.5%	-5.7%
イーサリアム	2,485.54	-8.8%	+0.8%	-16.2%

原油・天然ガス・金属・穀物は期近先物。

エネルギー：ブレント原油は2.4%上昇の104.72ドル、WTIは0.8%上昇の91.85ドルとなり、両者の価格差は約12.9ドルに拡大した。中東の供給リスクが米国内の原油より国際指標に強く影響しているとみられる（推測）。金曜日はトランプ大統領がロシアとの軽油供給の取り決めを発表し、原油はやや下落した（Yahoo Finance、10月9日）。米天然ガスは6.1%上昇した。

金属：金は1.3%上昇の4216ドルとなり、実質金利の低下が下支えとなった（推測）。銅は2.3%、銀は1.2%上昇した。

穀物：トウモロコシは3.6%、小麦は1.8%下落した。

暗号資産：ビットコインは4.5%下落の約8万2546ドル、イーサリアムは8.8%下落の約2486ドルとなり、韓国と中国のハイテク株安と同じ方向に動いた。

06

来週の注目材料

日付	イベント	注目点
10/13	IMF世界経済見通し（全文、バンコク年次総会期間中）、米大手銀行の7〜9月期決算	成長率とインフレ率の見通しにエネルギー価格の上昇が
10/14	米国9月CPI	市場予想は総合が前月比0.6%、前年比3.6%（前月3.4%
10/14	中国9月CPI、PPI、貿易統計	市場予想はCPIが前年比0.9〜1.0%程度（前月0.8%）、
10/15	米国9月小売売上高、PPI	小売売上高の市場予想は前月比0.3%増（前月1.2%増）
10/15	豪州9月雇用統計	失業率は4.6%で横ばいの予想。11月3日の豪準備銀行会
10/16	ユーロ圏9月HICP（確報）	10月29日のECB理事会前の最後のインフレ指標。9月理

07

データの定義と出典

週間騰落率 = 今週最終取引日の終値 ÷ 前週最終取引日の終値 − 1（2026-10-05〜2026-10-09）。休場の市場は直近の取引日。

株価指数・為替・商品・暗号資産・債券 ETF は Yahoo!ファイナンス（遅延あり）、米国債利回りは FRED、その他の10年国債利回りは OECD 月次データ（FRED 経由）。

為替は各通貨の対ドルでの騰落に統一し、プラスは通貨高を示す。

データの注記：KOSPIと台湾加権指数は10月8日までのデータである（10月9日は韓国がハングルの日、台湾が国慶節の振替休日で休場。韓国は10月5日も振替休日）。上海は10月1日から7日まで国慶節で休場したため、今週は10月8日と9日の2営業日のみで、9月30日の終値を基準とする。インドNifty50は10月1日の終値を基準とする（10月2日は休場）。FREDの米国債利回りは10月8日（木曜日）までで、金曜日のデータは未反映のため、本文ではCboe10年債利回り指数の金曜日終値も引用した。暗号資産の週間騰落率は10月4日の終値を基準と

する。ドル建てリターンは現地通貨建て指数の騰落率と通貨の対ドル騰落率の合成で、配当は含まない。
T. Rowe Price：Global Markets Weekly Update（10月9日終了週）

Yahoo Finance：Markets News, Oct. 9, 2026

Rio Times：ボベスパ指数 10月5日、10月9日

BigGo Finance：KOSPI 10月8日、Trading Economics：韓国株式市場

FinanceFeeds：ブレント原油週間レビュー、10月9日

Yahoo Finance：FRB10月利上げ確率

中央銀行：FOMC日程、FRB9月声明、Euronews：ECB9月10日利上げ、日銀9月18日公表文、イングランド銀行9月金融政策要旨、スイス国立銀行9月24日、豪準備銀行9月29日声明、カナダ銀行9月2日、中国政府網：9月LPR、SCC Online：インド準備銀行10月7日利上げ、5paisa：インド準備銀行2026年度会合日程、Selic金利と次回Copom、Bloomberg：メキシコ銀行9月24日据え置き、BBVA Research：2026年経済日程（メキシコ銀行会合日）、Finance Calendar：カナダ銀行、スイス国立銀行

来週の日程：Newsquawk：Week in Focus（10月12〜16日）、investingLive：Week ahead、IMF 2026年年次総会、Finder：豪準備銀行予想

本週報は公開市場データに基づくリサーチ資料であり、一般の読者を対象としている。個人の財務状況を考慮したものではなく、投資助言を構成するものではない。データには遅延があり、原資料の数値が優先される。

データ時点 2026-10-09 · 雅虎财经（股指、汇率、商品、加密资产、债券 ETF）；FRED（美债收益率、OECD 各国 10 年期国债收益率）

AlphaScope · alphascope.cc/ja/reports/global-weekly-2026-w41 · 2026-10-11 作成

財務データは SEC EDGAR の原資料に基づく。株価データには遅延があり、出典は各レポートに記載している。

レーティングはすべての読者を対象とするリサーチ上の見解であり、特定の個人に対する売買の推奨ではない。投資にはリスクが伴う。投資判断は読者自身の責任において行われたい。